

スポーツの秋 全国で輝いたよさの人たち

今月号では、この秋に全国を舞台に活躍した3人の「よさの人」を紹介します。「ジュニアオリンピックカップ」に出場し走幅跳で3位に輝いた堀さん、「第24回全国障害者スポーツ大会」の陸上競技で銀メダルを獲得した川戸さん、「全国健康福祉祭ぎふ大会2025」に京都府選手団としてマラソンに出場した衣川さん。それぞれの活躍をご紹介します。

＼全国3位！／

JOC ジュニアオリンピックカップ 第19回 U18 陸上競技大会

男子走幅跳 第3位（7m17）
10/17～19 三重交通 G スポーツの杜伊勢陸上競技場（三重県）

ほり たい し
堀 大志さん（宮津天橋高校宮津学舎3年／江陽中出身）



一昨年の三段跳に続き、2回目となるJOCに出場した堀さん。「助走と踏み切りがうまくいった」と振り返るように、雨の降るコンディションの中、最後の試技で自己記録に迫る7m17を跳び、見事、3位に輝きました。「緊張もあったが最後まで楽しんで跳べた。この結果は支えてくれた家族や先生、仲間のおかげです」と笑顔で語ってくれました。

第37回全国健康福祉祭ぎふ大会 （愛称：ねんりんびっく岐阜2025）

マラソン5km（男子70歳以上）出場
10/18～21 木曽三川公園特設会場（岐阜県）

きぬがわ しず お
衣川 静雄さん（三河内）



登山をきっかけにランニングを始め、旧野田川町駅伝などで活躍してきた衣川さんは、77歳になった今でも、週に3回程度のランニングを日課にしています。3年ぶり2度目のねんりんピックでは、「同じ年代でも速い人がある」と振り返ります。「走ることがつらいと思うときもあるが、何事も続けることが大切」と語ってくれました。

※写真はご本人提供



長島教育長から激励を受ける川戸さん（左）と堀さん（中央）／10月14日撮影

＼銀メダル獲得！／

第24回 全国障害者スポーツ大会 「わた SHIGA 輝く障スポ」

陸上競技（立幅跳 第2位、50m、4×100mリレー 出場）
10/25～27 平和堂 HATO スタジアム（滋賀県）

かわ と し ょ う か
川戸 紫桜花さん（与謝の海支援学校 高等部）



5月から全国大会に向けてコツコツと練習を積み重ねてきた川戸さん。初めての全国大会では、立幅跳、50m、4×100mリレー（第1走者）の3種目に出場しました。中でも、立幅跳では自己記録を更新する1m98の跳躍で見事、銀メダルを獲得しました。「目標としていたメダルを取ることができて、よかったです」と、充実した表情を見せました。

長島広明さん、 高校3冠を達成！

宮津天橋高校加悦谷学舎2年の長島広明さん（江陽中出身）が、10月に滋賀県で開催された「第79回国民スポーツ大会」のウェイトリフティング競技で優勝し、高校選抜大会、全国高校総体（インターハイ）に続いて“高校3冠”を達成しました。

本大会では、スナッチ、クリーン&ジャーク、トータルのすべてで大会記録を更新する圧倒的な実力を見せつけ、完全優勝を果たしました。世界を見据える長島さんの今後の活躍に、ぜひご注目ください！



さいとう・けいしん

2003年3月16日生まれ、与謝野町岩滝出身の22歳。小2から岩滝少年野球クラブで野球を始め、中学では京丹後リトルシニアに入団。近畿大学泉州高校では1年生の夏からベンチ入り。天理大学に進学するも2年次に退学。2023年に独立リーグ四国アイランドリーグplusの徳島インディゴソックスに入団し、2025シーズンでベストナインを獲得。

1メートル81、89キロ、右投げ左打ち。

10月23日に行われた「プロ野球ドラフト会議2025」で、与謝野町岩滝出身の斎藤佳紳さんが、埼玉西武ライオンズから育成ドラフト3位に指名されました。阪神タイガースなどで活躍し、「超人」と称された糸井嘉男さん以来、町内から2人目となるプロ野球選手の誕生に、祝福と喜びの声があふれています。

アニメ「メジャー」の茂野吾郎が好きで、小学2年生から岩滝少年野球クラブで野球を始めた斎藤さん。「父親が厳しく、小さいころは野球が嫌いだった」と当時の気持ちを振り返る。同クラブでは、3年生から投手を任され、恵まれた体格から放たれる力強い投球でチームを牽引。思い出は、全国大会出場をかけた最後の大会。迎えた決勝は投手戦となり、0対0のまま抽選負けという結果に悔し涙を流した。

「プロ野球入りの最後のチャンス。ダメだったら独立リーグをやめる」と覚悟を決めて挑んだ今シーズン。9月には自己最速となる155キロを計測し、先発と救援で活躍。最優秀防御率と最多勝の2冠に輝いた。と、強豪校である「近畿大学泉州高校（岸和田市）」に進学。1年の秋からベンチ入りを果たすも、甲子園出場は叶わなかった。天理大学でも野球を続け、1年の春からベンチ入り、秋には先発初勝利を収めたが、2年次に周囲の反対を説得し中退。「2年後のドラフト指名」を目標に掲げ、2023年、毎年プロ野球選手を輩出している四国アイランドリーグPlusに加盟する徳島インディゴソックスに入団。1年目から救援と先発で活躍するも、期限としていた2年間でプロ野球入りを果たせず、夢を諦めかけていたという。そのとき、「家族がもう一度背中を押してくれた」と、再び夢を追うチャンスを手にした。

「プロ野球入りの最後のチャンス。ダメだったら独立リーグをやめる」と覚悟を決めて挑んだ今シーズン。9月には自己最速となる155キロを計測し、先発と救援で活躍。最優秀防御率と最多勝の2冠に輝いた。そして迎えた運命のドラフト会議当日。指名の瞬間を振り返り、「うれしくて頭が真っ白になった」と喜びを語る。同時に、これまで支えてくれた家族や仲間、指導者に感謝の思いが込み上げ、サポーターがあつてこそ指名だったと語った。

※ この記事は、10月26日に取材した内容をもとに作成しています

よさの
Vol.62

斎藤 佳紳さん

【四国アイランドリーグPlus】
徳島インディゴソックス所属

与謝野町から2人目のプロ野球選手へ



力投する斎藤投手（提供：徳島インディゴソックス）